第５学年２組　道徳科学習指導案

日時：令和５年　６月１４日（水）第５校時

１　主題名　　責任ある自律的な行動【Ａ－(１)　善悪の判断，自律，自由と責任】

２　教材名　　「アップするの？」（新・みんなの道徳５、学研）

３　主題設定の理由

1. 道徳的価値について

本主題は，高学年の内容項目【Ａ－(１)　善悪の判断，自律，自由と責任】「自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をすること」をねらいとしている。自由と自分勝手との違いや，自由だからこそできることやそのよさを考えたりして，自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。また，自由に伴う自己責任の大きさについて，自分の意思で考え判断しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して，多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。

1. 児童観

（略）

1. 教材観

本教材は，自分の写った写真を他人に見せられた不安が描かれた読み物とそのほかの資料を用いて，本時のねらいである，責任ある自律的な行動の育成に迫るものである。「わたし」は，友達と写した写真をＳＮＳにアップしようとした時に，友達から嫌がられたことを不満に感じたが，後日，先輩が自分の写った写真を他人に見せたことを不安に思い，削除を願い出るという内容である。

ＳＮＳとの関わりについて考えることを通して，自律的に判断することについて考えることができる教材である。

1. 指導観

本時は，青少年のインターネット利用状況やコミュニティサイトで被害にあった児童の数などの客観的な資料を読み，情報発信についての危険性と情報の発信者として大切なことを考えるきっかけとしたい。展開の場面では，登場人物の気持ちの変化について考えることを通して，周囲や相手の状況を踏まえて自律的に判断し，責任のある行動をすることの大切さに気付くことができるようにする。終末では，事前に児童と保護者が行った「ふくしま情報モラル診断」の問題やアンケートの結果，教材を通して考えたことを基に，自由と責任について具体的に考えることができるようにしていく。

４　本時のねらい

周囲や相手の状況を踏まえて行動することの難しさやよさについて，自律的に判断し，責任のある行動をしようとする道徳的判断力を育む。

５　大玉村重点事項　「心に響く道徳の授業づくり（思いやり・強い意志）」との関わり

**【視点１】教材を自分事として捉える（ふくしま情報モラル診断の活用）**

　ふくしま情報モラル診断のアンケートや問題の結果を全体で共有することによって，自分たちのメディアとの関わり方を振り返ったり，メディアコントロールや，情報を正しく扱うことの難しさについて考えたりすることで, 自由と責任について自分事として捉えて考えるきっかけとなるようにする。

**【視点２】多面的・多角的な考えとその理解（グループや全体での考えの共有）**

　インターネットを活用して情報を発信する時には，どのようなことに気を付ければよいか，グループや全体で考えを共有する場を設定することによって，様々な考え方や感じ方があることに気付くことができるようにする。

６　学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動・内容 | 時間（分） | 〇指導上の留意点　◎村重点関連　※評価 |
| １　本時の課題をつかむ。  （１） 「ふくしま情報モラル診断」の結果を見て，気付いたことを発表する。  （２）　コミュニティサイトで被害にあった子どもの数のグラフを見て，情報発信の危険性について考える。  　　・　年々被害数が増えている。  （３） 学習課題を確認する。  情報を発信する時に，大切なことはどんなことだろうか。  ２　教材文を読んで考える。   1. 教材文の内容を整理する。 2. 改めてＡ子の気持ちを考えた時のわた   し」の気持ちを考える。   * + こんなに嫌な気持ちになるとは思わ   なかった。   * + ＳＮＳに写真をアップすると，誰が   見ているか分からないから不安だな。  ３　資料を使って考える。   1. 全員で「ふくしま情報モラル診断」の   問題を解く。   1. 自分の考えをワークシートに書く。    * ルールを決めて使う。    * 情報を信じすぎない。    * 相手の気持ちを考えて情報を発信す   る。   * + 誤解される言葉遣いになっていない   か確認する。   1. グループで交流する。 2. 全体で考えを話し合う。    * 相手の立場に立って考える。    * きまりやルールを守る。   ４　本時の振り返りをする。  （１）　自分の考えをまとめる。  （２）　教師の説話を聴く。 | ７  １０  ２０  ８ | ◎　本時と関連性の高いＳＮＳとメディアコントロールの集計結果について全体で共有し，教材を自分事として捉えることができるようにする。　　　　　　【視点１】  〇　具体的な内容の資料を提示することで，ネット被害が他人事ではないことに気付くことができるようにする。  〇　登場人物のイラストを使い，関係を明確化する。  〇　Ａ子が嫌がった気持ちと「わたし」が不安になった気持ちを比べることによって，ＳＮＳにアップすることと，周囲の人に写真を見せることの違いを考えさせるようにする。  〇　「ふくしま情報モラル診断」の中の，「言葉づかい」，「情報発信」，「ルール（法律）」，「情報を見分ける」の分野から問題を出題し，4つの観点で自分の考えをもつことができるようにする。  ◎　グループや全体で考えを共有することによって，情報モラルや情報活用能力について考えを深められるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　【視点２】  ※　周囲や相手の状況を踏まえつつ，自律的に判断し，責任ある行動をすることについて自分と関わらせながら考えることができている。（発言・観察・ノート）  〇　感じたことや考えたことなど視点を決めて振り返り，考えをまとめることができるようにする。  〇　ＳＮＳには，プラスの面とマイナスの面があることについて，教師の体験を基に話す。 |

７　板書計画

アップするの？

情報を発信する時に，大切なことはどんなことだろうか。

A子

・正しい情報か考える。

・情報を信じすぎない。

・うそをつかない。

・相手の気持ちに立つ。

言葉づかい

情報を見分ける

情報発信

・家の人に相談する。

・決められたルールは守る。

・許可をとる。

・相手の気持ちに立つ。

こわかっただろうな

悪いことしたな

うるさいな

ルール

わたし

みんなに知られたらどうしよう

先輩